

平成26年度

久米島町教育委員会の事務に関する  
点検・評価報告書

平成27年7月

久米島町教育委員会

## ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

\*平成27年7月1日現在

職 名	氏 名	任 期
委員長	山元朝弥	23年7月10日から27年7月9日
職務代理者	儀間剛	24年7月10日から28年7月9日
委員	平良弘光	26年4月 1日から29年7月9日
委員	糸数真由美	26年7月10日から30年7月9日
委員（教育長）	吉野剛	26年7月10日から30年7月9日

学識経験者名簿 (五十音順)

\*平成27年7月1日現在

役 職	氏 名
元久米島 PTA 連合会会長	吉原 昌司
元高校教諭	赤嶺 實
元養護教諭	宮平 厚子

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホーム・ページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

## 2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成26年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

### (2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

#### ・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

### (3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を委員に任命し、ご意見をいただきました。

\*評価実施当日、宮平厚子氏が、体調不良のため欠席。

### (4) 評価基準日

平成27年3月31日

### (5) 評価実施日

平成27年7月28日

## 平成26年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針、第3次沖縄県教育推進計画等を踏まえ、「平成26年度久米島町教育主要施策」を定めました。

### 教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

### 目標達成のための主要施策

#### 学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」をはぐくむ学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実させるとともに、目的意識を高める指導方法等の改善・充実を図る等、適切な教育課程の編成・実施に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
学力調査	1, 全国学力学習状況調査 * 小6年生・中3年生 2, 県到達度テスト * 小3～6年、中1～2年 3, 標準学力検査 * 小4～6年生、中全学年	○全国学力学習状況調査は前年度と比較して小中共に全国との差を縮めた。 ○標準学力検査は前年度と比較して小中共に偏差値が上がった。(小1 p、中0.9 p) ●県到達度調査は、前年度を上回った教科は9教科中3教科。授業改善の継続と共に補習指導の確実な実施を行っていく。	B	B
検定支援	1, 漢字検定 * 小学校2年以上に漢字検定 2, 英語検定 * 中学校生全員対象	○漢字検定 H26 合格率 64.9 % ○英語検定 H26 合格率 44.8 % 3級以上合格者 21 名 在籍学年以上の合格を目指す取組の充実	B	B
地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全小中学校で地域人材を活用した取組を計画的に行うことができた。 ●地域人材の確保が必要である。	B	B
公営塾	1, 島内小学生の学習支援として「ゆいまーる塾」開設 * 3・4年生を対象 2, 県の離島僻地支援事業として「にゅうまーる塾」を開設 * 中学3年生を対象	○中学校は、仲里会場、具志川会場ともに一年を通して10名前後の生徒の参加があった。 ●小学校は、両会場とも参加者が少なかった。各学校での補習学習に参加しているものと思われる。	B	B
久米島町学力向上実践発表会	学校・家庭・地域が連携し、学力向上を目指して各学校が取り組んだ実践を発表する。 * 球美中ブロック、西中ブロック	○8小中学校の取り組み資料等を通して、各学校の取り組みの良さを共有できた。 ●学校・家庭・地域連携の学力向上を目指しているが、保護者や地域の方の参加が少ない。	B	B

## 道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性をはぐくむことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的なかかわりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めています。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
道徳・人権教育	道徳の時間の指導の充実 * 指導案を作成しての研究授業の実施	○全校で指導案を作成しての研究授業が実施され、また全教諭が1回は授業公開できた。 ●研究授業における、指導助言が十分出来ていない。	B	<b>B</b>
	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等調査の実施	○全学校で、いじめ等に関するアンケートを定期に実施できた。 ●子ども達の、場に応じた言葉遣いの指導が必要。	B	<b>B</b>

## たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
体力向上・健康 保持増進	体力・運動能力、運動習慣等 調査の実施	○ H26 結果より中学校で全国を上回った種目は 18 種目 中 9 種目あった ● H26 結果より小学校では全国を上回った種目は 16 種 目中 6 種目であった。 体力づくり運動習慣作りを図る取組の充実が必要	B	<b>B</b>
	幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システ ムを活用し、健康管理に努める。	○福祉課、公立病院、女子栄養大学、各学校との連携が 取れ、体制づくりが構築できつつある。 ●町全体に小・中学校における肥満傾向及び予備軍 の子ども達がいる。保護者の意識も弱い。	B	<b>B</b>
	健康教育講演会等の開催	○学校三師の先生が、授業や学校保健委員会で短い講話 ができた。 ●専門家による講演会は、開催できなかった。	B	<b>B</b>
交通安全指導	新学期に幼・小 1 年を対象に 安全協会・警察と連携した交通 安全指導を実施している。	○那覇署、町交通安全協会の職員を講師として、全 幼稚園・小学校において、信号機の見方・横断歩 道の渡り方等について、実際に信号や横断歩道 を使った訓練を行うことができた。 ●各学校で登校時に校門にて、交通安全指導・挨拶 運動をボランティアで展開しているが、人材が少 ない。	A	<b>A</b>
なつやすみ水泳 教室	夏季休業期間中に、泳力の向 上を図ることを目的に、B & G プ ールを活用し、希望者のみ午前、 午後各 3 回開催する。	○多くの児童が楽しみながら練習し、泳力が伸びた。 ● B・G プールに近距離にある地域の子どもの参加 者は多いが保護者の送迎等の問題で遠距離の参加 者が少ない。	B	<b>B</b>



## キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
ジョブシャドー ウィング学習・職 場体験学習	町内各小中学校の児童・生徒 が職場を訪問し、仕事の観察や 体験をする。	○6小学校の6年生が、町内の40あまりの受け入 れ事業所に、1～2名ずつ配置され、職場の見学・ 体験を行うことができた。 ○久米島にも、様々な職種の仕事があることがわかった。	A	A

## 食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
給食センター運 営	児童・生徒の健やかな成長を 育むため、安全、安心な給食を 提供している。	○小学生 494 名・中学生 263 名・教職員 124 名に安心 安全な給食を提供できた。 ○栄養教諭が、各学校からの要請により、食育授業、給 食指導を実施できた。 ●可能な限り地場産物の活用を実施しているが、さ らに開拓が必要。	B	B

## 特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努める。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助成)	○延べ598名を各種大会に派遣させることで、生徒に意欲を持たせることと、心身の育成ができた。 ●予算の範囲内での補助で上限人数枠を設定したが、トーナメント人数まで補助ができるよう予算確保したい。	B	B

## 平和教育の充実

生命の尊重と個人の尊厳を基本とし、思いやりの心や寛容の心を育む為にも、県や久米島町の歴史や地域の特性を考慮し、児童生徒の発達の段階に応じた平和教育を教育計画に位置づけ、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
平和教育	恒久平和を願う平和学習、平和活動の実施。 * 6月23日の慰霊の日において、町主催の慰霊祭に各学校代表が参加している。	○全小中学校で、平和に関する学習や集会等の取り組みを実践できた。 ○町内6小学校、2中学校から児童会・生徒会が参加し、千羽鶴の奉納を行った。 ●戦争体験者が高齢となり、戦争や平和の尊さについて話を聞ける機会が減少し、歴史の継承が薄れつつある。	A	A

## 国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図って参ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
国際理解教育	1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	○どの学校においても、ALTが英語指導助手として積極的に担任とのTT授業を行っている。 ○児童生徒も、意欲的に学習に参加出来ている。 ●教科担任との授業内容に関するミーティングの時間確保が難しい。	A	A
	小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	○小学校の日本人英語指導助手として、町内6小学校の全学年で、週1回の英語学習指導を、担任と連携し実施できた。 ○ほとんどの児童が意欲的に学習できている。 ●各学級担任との授業内容に関するミーティングの時間調整が難しい。	A	A
	国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。	○派遣した生徒にとって貴重な体験・経験となり、参加した生徒の視野の広がりや成長が帰国後の報告会等でみられた。 ●選考試験を筆記・リスニングに重点配分しているが、選考方法について、点数配分の見直しが必要。	A	A

## 特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものであります。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性等や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
就学指導委員会設置（現在は教育支援委員会に名称変更）	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	○申請のあった児童については、全員慎重に、また丁寧な審議を行うことが出来た。 ●就学指導委員会に申請される児童生徒数が年々増加しており、心理学判定員、検査員等の人材が足りない。	B	<b>B</b>
特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校に10名、中学校に2名の特別支援教育支援員を配置している。	○支援員を前年度より2名増員し配置できた。 ●特別支援学級だけでなく、通常学級においても、情緒的な支援が必要な児童生徒が増える状況にあり、特別支援教育支援員の配置が十分とは言えない。	B	<b>B</b>
特別支援教育アドバイザー等の派遣	特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に関する助言、支援学級担任・特別支援教育コーディネーターへの助言等を行う特別支援教育アドバイザーの派遣。	○特別支援教育に関して経験豊富な、町内の小学校に勤務する教諭が、各学校の要請等に応え教諭や保護者に、適切な助言を与えることができた。 ●特別支援教育アドバイザーが島内にいないので、必要となときに助言が出来ないことが多い。年に2回の県から派遣する巡回アドバイザーを効果的に活用したい。	B	<b>B</b>

## 情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。また、情報化社会に対応できる情報活用能力を育成するため、情報教育の一層の改善・充実に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
小・中学校情報教育	高度情報通信社会に対応できる為の小中学校の情報機器の整備。	○各学校において、ITを活用した授業（デジタル教科書、大型テレビ、PC等）や情報教育が実践できている。 ●サイバー犯罪が増加していることから、特に中学生を対象とした犯罪防止の授業を実施したい。	B	B

## 環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など接続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	○教育委員会・久米島ホテルの会主催のホテル観察会が4月下旬に実施。多くの親子（約50名）の参加があり、環境保全の大切さを学ぶ事が出来た。 ●自然観察のため、天候等条件により十分な学習機会を提供出来ない場合もある。	B	A

環境教育	水生生物の種類・水質の学習を行うリバーウォッチングの開催。(水生生物調査)	○各小学校6年生が白瀬川で、水生生物の種類調査や水質の検査を実施することができた。 ●各学校の年間授業計画で、限られた時間数の中で実施するため、学校間の日程調整が厳しい。	B	<b>B</b>
------	---------------------------------------	--	---	----------

### 生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを各学校へ派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○特別な支援が必要な児童生徒にとって、スクール・カウンセラーは心を許せる存在であり、良き相談相手となっている。 ●カウンセラーの訪問回数が少ない(町派遣→各小中学校は週1・2回、県派遣→中学校2校と小学校1校が月1回)ことで、学校によっては十分な支援ができていない。	B	<b>B</b>
いじめ・不登校等の状況の把握	町内の全小中学校におけるいじめ・不登校等の調査を実施し、状況を把握する。	○件数が少ない。 ●不登校児童生徒への対応及び支援を充実させる。福祉課、警察とも連携しながら対応したい。	B	<b>B</b>
関係機関との連携	問題の内容に関係する機関(福祉課、警察、県の児童相談所等)と連携し、適切な対応を取る。	○問題のある児童生徒を関係機関へつなぐことができた。 ●関係機関につないでいるが、継続的な支援・対応が充分に出来ていない	B	<b>B</b>

## 幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣，態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものであります。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している。	○希望する全ての園児を預かることが出来ている。 ●免許を保持する預かり指導員の確保が難しい。病気等で休んだ場合の補充職員がいないことから、教育委員会の職員で対応している。また、1名だと安全面の確保が厳しい場面がある。	B	<b>B</b>
	幼稚園教諭の休暇・出張等の際に補充教諭として派遣している。また、園外保育などへも派遣し安全面等への配慮も実施している。	○教諭が出張等で園を留守にする場合や急な休みが生じた時、幼稚園補充教諭で対応できている。 ●複数園で教諭が急な休暇等の場合があった場合対応ができなくなる	B	<b>B</b>
	大岳、仲里幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている。	○それぞれの園において、園児のニーズにあった支援ができた。 ●幼稚園において支援を必要とする園児が増える可能性がある。特に情緒的な園児が増えた場合の人的対応が難しい。	B	<b>B</b>

## 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮するとともに生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

主要小目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
児童・生徒交流	<p>&lt;小学校・なかさと交流&gt; 2月に新潟県十日町市に5年生14名を派遣、7月には本町において14名の児童を受け入れる。</p>	<p>○交流生は、事前指導から、本番、報告会と、全ての児童が挨拶・発表をノー原稿で行うことができた。表現力が確実に身に付いている。また、交流会に参加した経験・体験で自信を付け、学校活動（児童会等）に積極的に参加している交流児童が見られた。 ●交流児については、限られた人数枠の中での選考となるため、希望しても参加出来ないケースもある。</p>	A	A
	<p>&lt;中学校・佐賀市交流&gt; 12月に佐賀市への派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。</p>	<p>○交流を通して視野が広がり、また交流生同士の親睦を深めることができた。 ●男子の応募者がなく交流活動において支障がある。 * h26 交流生は、男子1名、女子15名</p>	B	B
夏休みものづくり体験教室	<p>夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。</p>	<p>○地域の方々が講師となり、普段なかなか触れる機会のない「ものづくり」と人的交流が出来た。 ●刃物を使うものづくりがあり事故等が懸念されるので確実に保護者そろっての参加が望ましい。</p>	A	A
ヤングフェスティバル	<p>子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。 * 唄・三線、舞踊、ピアノ、空手 伝統芸能等</p>	<p>○幅広いジャンルの子どもの発表会とし、たくさんの方により家族が声援を送っている。 ○約250名の幼児児童生徒が参加した。 ●出演団体が多く、開催時間が長時間となってしまう。</p>	A	A



<p>久米島町子ども 読書まつり</p>	<p>本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。</p>	<p>○沖縄県子どもの本研究会や地元サークル団体による読み聞かせや絵本の解説、展示販売を行っており、多くの親子連れが参加していた。</p> <p>●販売本の数やジャンルに限りがあり、ニーズに十分対応できているか把握する必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>△</p>
<p>久米島現代版組踊り</p>	<p>地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。</p> <p>*一括交付金を活用 ・久米島公演 平成27年2月22日開催 約810名 鑑賞</p>	<p>○島の中高校生（約40名）が、表現力豊かに、堂々と熱演できた。見るものの魂を揺さぶる感動公演であった。</p> <p>●事業実施に必要なソフト（人的指導者等）・ハード（設備等）が島内で調達できない。</p> <p>●高校の定期試験と重なっており、実施時期の見直しが必要。</p>	<p>A</p>	<p>△</p>

## 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連

機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
星空観察会	天文学や宇宙について興味や知識を深めるために、専門家を講師として招いて観察会を実施している。	○夏休みの8月中旬、シンリ浜公園地において、多くの親子（89名）が参加して開催できた。 ●参加者は多いが、自然観察となるため、天候に大きな影響を受けてしまう。（雨天時の対応を準備）	B	B
久米島町新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○茅原南龍先生の記念講演会を開催できた。 ○島内小中学生の応募が453点、高校生・一般から約20点の応募があった。 ●小中学生の応募点数が減少している。 ●一般の部の応募数が少ない状況がある。	A	A
移動図書館ホタル号	幼児・児童、又、町民が誰でも何処に住んでいても、本に親しみ・図書が利用できることを目的に、週3回、町内を巡回し図書の貸し出し等を行っている。	○学校の図書室とは違った読書環境として、町内の児童の楽しみ、放課後の居場所となっている。 ●各ステーションへの巡回が少ない。（隔週） ●車両本体（ホタル号）が老朽化し、運行に支障が出始めている。	A	A
放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを目的として開催している。	○子ども達の安心・安全な居場所としての環境作りが出来た。 ●各小学校単位で開催しているが、地域に人材が不足し、ニーズに応じた教室の開催が充分でない。	B	B

## スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	<p>*毎年体育の日前後の日曜日に開催しているが、今年度は、<u>台風のために中止</u>となる。</p> <p>●10月は、各種の大会や行事が重なり、参加出来ない選手もおり、期日の見直しが必要。また陸上競技人口の減少に伴い種目によっては欠場するチームもある。</p>	なし	なし
学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	<p>○町民が夜間、学校施設を活用してのスポーツを通して、コミュニケーションづくりや健康増進を図っている。</p> <p>●利用者が少ない。</p>	B	<b>B</b>
各種競技会支援	小体連・中体連行事等の支援	<p>○児童生徒は、意欲的に参加し競技できた。また、保護者の応援も多い。</p> <p>●運営に当たり、役員や競技審判、準備員等の役員確保が厳しい状況である。</p>	B	<b>B</b>
久米島町パーク ゴルフ協会	協会事務局として生涯スポーツとしてのパークゴルフの普及・振興を通して会員相互の交流と親睦を図り、心身共に健康で明るく楽しい地域社会づくりに寄与	<p>○町民、主に老人会を対象としたルール講習会の実施や大会の開催、運営等を行うことが出来た。</p> <p>●技術を競う大規模な大会の開催については、所管の見直しが必要である。</p>	B	<b>C</b>

## 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうとする学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図って参ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○6月から12月まで毎週1回、具志川教室・仲里教室の2ヶ所で開催できた。 ●長期間（約半年間）の講座であるが、後半からは受講者の参加が半減した。	B	<b>B</b>
手話教室	手話の学習を通して、聴覚障がいについての知識を深め、幅広い年代でコミュニケーションを図りながら、交流の輪を広げることを目的に開催している。	○6月から12月までの全18回、毎週火曜夜7時から8時30分まで、仲里庁舎2階会議室にて実施できた。 ○教室終了後も「手話サークル」で活動を続ける受講生がいる。  ●人数が少ないと検定試験が受験できない。 ●初級・中級コースに進みたいとの要望がある。	A	<b>A</b>
移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。	○具志川改善センターにて、5月と8月に2回開催できた。期間を2日間とし、また読み聞かせ等も行ったことで多くの町民の参加、貸出利用があった。  ●貸出希望のある「リクエスト本」になかなか対応出来ていない。提供冊数を増やせないか調整したい。	A	<b>B</b>

## 文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○平成 25 年度～ 27 年まで 3 年事業であり、現在、進行中にて平成 26 年度は約 50 % 達成できた。 ●平成 27 年度に完了を予定しているが、予想以上に細かい資料が有り、1～2 年の延長が予想される。	B	<b>B</b>
宇江城城跡保存管理計画策定	平成 21 年に国指定史跡に指定され、城跡保存管理計画を策定し、適切な保存管理を図る。	○平成 25 年度～平成 26 年まで 2 年事業であり、予定通り宇江城城跡保存管理計画策定委託業務を完了した。 ●今後、保存管理計画を基に整備実施計画・修理事業を推進していく。	A	<b>A</b>
町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○平成 25 年度より引き続き原稿執筆者依頼及び執筆者と文書等及び現地調査を行っている。町史編集嘱託員を採用する。 ●原稿執筆者依頼が平成 26 年度は 80 % 承諾しており、平成 27 年度末までに 100 % の承諾を得たい。	B	<b>B</b>
文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	○指定史跡や文化財の草刈り及び修復作業を行うことが出来た。 ●草の伸びに草刈り作業が追いつかない場合がある。	B	<b>B</b>

## 教育委員会の活動状況について

### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。平成26年度は16回(臨時会4回を含む)開催しました。

### (2) 教育委員会会議以外の活動状況

#### ○ 研修会 (3回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (26年度5月)

沖縄県市町村教育委員研修会 ・ 那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (26年度10月)

市町村教育委員会教育委員委員・教育長研修会 (27年2月)

#### ○その他活動状況 (各種行事等への出席)

年度	月	行 事 名
26	4	各小学校入学式・各中学校入学式 ・ 久米島高校入学式
	4	教職員歓迎会
	5	久米島 PTA 連合会総会
	7	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会 (7月～10月)
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	中体連陸上競技大会
	9	久米島 PTA 連合会研修
	10	小学校音楽発表会

	1 0	久米島小体連陸上競技大会
	1 0	久米島地区小学校童話・お話大会
	1 0	久米島地区中学校意見発表大会
	1 1	本部町教育委員会との情報交換会
	1 1	町学力向上実践発表会（球美中ブロック）
	1 1	中学校合唱コンクール
	1 2	比屋定小学校120周年記念式典
	1 2	各幼・小・中学校 学芸会・学習発表会
	1 2	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
2 7	1	町新年会
	1	町成人式
	1	町ヤングフェスティバル
	1	久米島町新春書道展
	2	なかさと交流
	2	中体連角力大会
	2	町学力向上実践発表会（久米島西中ブロック）
	2	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	2	小学校音楽発表会
	3	小・中・高卒業式

## 《外部評価委員の意見》

- 学力向上は、幼稚園、小学校低学年の指導が最も大事ある。そこをしっかりと丁寧に取り組んでほしい。
- 高校生を対象に行っている「町営塾」の講師を小中学生にも活用できないか。
- 島外派遣費補助について、先島で大会があった場合には、規定通り額でなく配慮（派遣費補助の増額）がほしい。
- ジョブシャドー学習・職場体験学習を通して、子ども達に見られる変化についても成果をまとめて欲しい。
- 地産地消の推進から、地場産物の活用について、アイデアを持って工夫して欲しい。
- 情報教育においては、サイバー犯罪対策の授業等が必要である。その中で、スマホの使い方等についても指導が必要である。
- ホテル観察会は、自然環境が良くなれば、久米島ホテルも増えると言うことを、子ども達にも、大人にも実感させられるので大変良い取り組みである。そういう意味で、子ども達や保護者が、環境保全についての関心やその必要性を感じた学習会だと思うので、ホテル観察会については、評価Bではなく、**A**が妥当だと考える。
- 生態観察や環境調査等、子ども達に自然環境について学ばせる内容は良いと感じる。参加出来ていない小学校も見られるので、全ての小学校が参加出来るような開催日程の工夫が必要ではないか。
- 生徒指導について専門的に相談・指導出来る人材の確保が必要と感じた。
- 中学生の交流事業（佐賀交流）については、男生徒の参加者が極端に少なく、交流活動に支障があったと考える。今後は、男女のバランスがとれた募集・推薦ができるよう、各中学校には工夫・努力して欲しい。が望ましいのでは。
- ホテル号の巡回は、どの学校の子ども達も大変楽しみにしており今後も継続してほしい、
- パークゴルフの普及・振興については、マナー講習等をもう少し行って欲しい。スポーツ競技では、マナーやモラルが大切である。パークゴルフ場利用者の中には、まだまだマナーが出来ていない町民も多く見られることから、評価もBではなく、**C**が妥当だと考える。
- 県立図書館と連携した「移動図書館」は大変よい取組であるが、提供冊数が少ない感じがする。町民のニーズ（リクエスト本）に十分応えられるよう努めて欲しい。
- 全ての項目について適切に評価されていて、また課題への対応も示されているところがとても良かった。今回の評価結果を生かし、さらに実効性のある取り組みをしてもらいたい。